

(2024.1.19)

兵庫史を歩く No.43 「廃城令」により地上から消え去った名城

尼崎城址をたどる



尼崎城とはどんな城だった？

「え？ 尼崎に城があったの？」

平成 31 年（2019）3 月に復元天守閣が完成するまでは、このような声が一般的であった。そうなんです。尼崎には立派な城があったのです。

元和 3 年（1617）譜代大名の戸田氏鉄（うじかね）が近江膳所から入封し、翌年から数年かけて築城を完成させました。庄下川を西の外堀とする 3 重の堀と 4 層の天守からなる城で、その規模は現在の北城内・南城内の約 300m 四方、阪神甲子園球場の約 3.5 倍、堀まで入れると 4 倍以上にも相当する広大なものであった。中心となる本丸は約 100m 四方で、その北東に天守閣があった。4 層であり、8～9 階建てのマンションに相当し、まっ平らな尼崎ではさぞ目立ったことであろう。（江戸時代に兵庫県下で天守閣を持った城は姫路城とこの尼崎城の二つのみである）

城の縄張りは、本丸・二の丸・三の丸を配し、本丸を中心として時計回りに、二の丸・松の丸・南浜・西三の丸・東三の丸へと渦巻状に外側に広がるように曲輪を配した（渦郭式）。

また、本丸には専用の湯殿と茶室を備えた貴賓室のような空間があり、部屋の四方に金の襖や障子があったことから「金の間」と呼ばれたそうである。

沖から見ると城全体が海に浮かんでいるように見え、美しく水に写る姿は「琴浦城」の名で親しまれた。

いずれにしても尼崎城は 5 万石の大名の居城としてはあまりにも大きすぎるものであった。

なぜ尼崎城はこんなに大きな城だったのか？

この答えは当時の時代背景をみれば理解できる。

戸田氏鉄が尼崎に転封となった元和3年（1617）は大坂夏の陣で豊臣家が滅ぼされてからわずか2年後のことである。徳川幕府の基礎はまだ固まっておらず、周辺は外様大名に囲まれ、西国には島津をはじめとして大大名が控えていた。これら西国に対する備えは喫緊の課題であった。そこで幕府は姫路・明石・篠山と共に尼崎を西国に対する盾としたのである。この尼崎城の広大さは、幕府がいかに尼崎を重視していたかを物語るものである。

なぜ尼崎城は地上から消えたのか？

明治6年（1873）明治政府は、これまで陸軍省の所管であった全国の城郭を、軍用として残すもの以外を大蔵省に所管を移して処分すべきものとした。いわゆる「廃城令」である。

尼崎城も大蔵省所管となり廃城が決まると、建物は解体され、一部は民間に払い下げられ処分された。更に堀の埋め立てが進められ、本丸石垣は尼崎港修築のために防波堤の石材として利用された。その結果、尼崎城は櫓のひとつ、石垣のひとつも残さずに完全に地上からその姿を消し、人々から忘れられていった。日本一徹底的に潰された城郭であった。

今日はその尼崎城の痕跡を辿ってみたい。

① 二つ串団子の刻印石

大物公園はかつての大日本紡績（現在のユニチカ）の尼崎工場跡地に造られた公園である。中心施設として日本列島をかたどり、各県の樹木を植えた「郷土の森」があった。かつての工業都市として全国から労働者が集まった尼崎らしい施設であったが、維持されず、現状は見る影もない。

この公園に尼崎城の刻印石といわれている石がある。昭和25年ごろ旧尼崎城大手門付近にあった工場跡地から掘り出されたもので、発見位置から推定して、石は本丸の堀の石垣に使われていたものと言われている。立ててあるが、横にして使うので地面側が表面である。ピンクの上質花崗岩とか。

刻印は築城工事に従事した石工らが工事分担を明らかにするためのものである。尼崎城では、なぜか刻印石は数例しか発見されていない。



② 北浜公園



尼崎城の東外堀にあたる大物川を埋め立てた跡にできた公園の一つである。

この公園に尼崎城絵図と「東大手門橋」の石碑がある。

③ 明城小学校

尼崎市立明城小学校は尼崎城本丸跡に位置している。

(1) 天守閣と隅櫓の模型

校庭にはかつて本丸にあった天守と隅櫓の模型がある。これは昭和15年に教職員と児童により、古い写真を基に制作されたものである。痛みがひどく平成25年(2013)に一度修理されたが、その後10年経っており、再度修理が必要な状態である。



(2) 二宮金次郎像台座



校庭にある二宮金次郎像の台座は石材右側に矢穴の跡がある矢穴石(石切りの際の矢跡が残る石)で、矢穴サイズから築城時の石垣石とみられる。その形から上面が石垣表面とみられる。

(3) 尼崎城址石碑

明城小学校南西付近の歩道上に尼崎城址の石碑と説明版がある。円柱状で、尼崎城の堀に架かっていた本丸太鼓橋の橋脚を使って作られたと伝わる。現在地は二の丸の前の内堀と中堀を結ぶ横堀や「四角堤」と呼ばれる内堀と外堀を結ぶ縦堀のあった所で、この付近に「伏見門」があった。



④ 尼崎市立歴史博物館

昭和13年(1938)に建てられた旧尼崎市立高等女学校の校舎をリニューアルして、令和2年(2020)にオープンした。

場所は明城小学校の北側で、尼崎城本丸跡の北東付近、つまり天守跡にあたる。

本丸の石垣石も多数屋外展示されており、博物館内では、本丸御殿の鬼瓦、鯨、本丸模型、尼崎城の絵図などが展示されている。



(1)正門の門柱

門柱は石垣石でできている。



(2)尼崎城天守閣遺蹟

正門を入ってすぐの植え込みの中央部に「尼崎城天守閣遺蹟」の碑がある。もともとこの碑は当初の場所から移されており、ここに天守があったわけではない。博物館の本館あたりが天守であり、この場所は内堀であった。

(3)内庭の石垣群

博物館の内庭には石垣石が数多く集められている。もともと内庭は公開されておらず、1階の廊下から見る事ができる。学芸員の話では、これらの石は本丸跡から集めたものであり、本丸の石垣と考えられるが、どこで使われていたかまでは分からないと。



⑤ 櫻井神社

明治15年(1882)旧藩士の有志が歴代藩主の遺徳を偲び創建された。したがって櫻井信定以降16代忠興までが祭神となっている。(尼崎藩主としては10代忠喬以降)

もともとは徳川家康の曾祖父の弟を祖とする松平家であったが、鳥羽伏見の戦い後、新政府に恭順を示すため、もともとの所領の名にちなみ「櫻井」と改姓した。家紋も葵ではなく、桜のデザインである。拝殿の軒瓦にはピンクに色付けされた桜の紋が描かれている。

最後の藩主忠興は明治10年の西南戦争で敵味方の区別なく負傷者の手当をすべく博愛社を結成した。後の日本赤十字社である。また、学問向上にも力を入れ明治6年(1873)尼崎で最初の学校である「開明小学校」を設立している。

(1)本丸御殿棟瓦

弘化3年(1846)尼崎城本丸御殿が全焼したが、領民の協力もあって翌年再建された。この瓦は再建された本丸御殿の棟瓦である。

正面には歴代藩主が使用した「九曜(くよう)」の紋、左側面には「上料理之棟」と刻まれており、たくさんあった本丸御殿棟瓦の内、城主などの料理を作った場所の棟瓦であることがわかる。



(2)石杭句碑

築城当時、外堀に架かっていた橋の石杭がある。その石杭に12代藩主忠告の句が刻まれている。

「先ず霞む竈々や民の春」 亀文

代々の城主は文芸・芸能に優れていたようで、なかでも忠告は文学・絵画・乗馬等に秀でており、学問・芸術・武道の神様として崇敬された。願い事が叶うように句碑を撫でてお参りするとよいとか。



⑥再建天守閣

家電量販店「ミドリ電化（現エディオン）の創業者安保証氏が創業の地である尼崎に尼崎城天守閣を再建すべく、私費約12億円を寄付、これに基づいて建設され、平成31年（2019）3月一般公開が始まった。

本来天守があった地には明城小学校や歴史博物館があり、北西に300mほど移動した尼崎城址公園に建設された。

再建にあたっては、江戸時代中期の「尼崎城分間絵図」が参考にされた。



⑦尼信会館



尼信会館の2階常設展示で、尼崎城の精巧な復元模型と資料が展示されている。また、櫻井家ゆかりの国の重要文化財である「太刀銘守家」（櫻井家の家紋「九曜紋」が彫られている）や火縄銃などが展示されている。復元天守再建に参考とされた「尼崎城分間絵図」がある。この絵図は城の内側と外側から描かれ、実測寸法が記されたもので、巻物となっている。所有は櫻井神社で尼信会館に委託されている。

表の会館前のプレートが埋め込まれた石碑があるが、これも尼崎城の石垣石である。石垣を積んだ際の表を下にしてつかわれている。

(次回予告)

2024.2.17

兵庫史を歩く No.44 史跡の町・播磨町を訪ねる

別府鉄道廃線跡～大中遺跡～新井用水

大中遺跡では学芸員の解説あり 大中遺跡で観梅を楽しみます